

本品は研究用です

商品名 : UltraRIPA Buffer

商品番号 : F015B

容量 : 100 ml

製品説明 :

RIPA (Radio-ImmunoPrecipitation Assay)バッファーはタンパク質変性作用が小さいにもかかわらず、溶解力が強く、組織・細胞からの効率的なタンパク質抽出に優れています。RIPAバッファーで抽出したタンパク質は立体構造や酵素活性などの機能を維持しているため、機能解析を目的とした組織・細胞からのタンパク質抽出において最も汎用的に使用されるバッファーです。しかし、RIPAバッファーでも可溶化出来ない画分があり、その画分は界面活性剤不溶性膜画分 (Detergent resistant membrane (DRM)) または脂質ラフトと呼ばれます。そのため、DRMに含まれるタンパク質の多くは従来の溶解バッファーでは非変性条件下での可溶化が容易ではなく、機能解析が困難とされています。

UltraRIPAバッファーはDRM中のタンパク質でさえRIPAバッファーより高効率に抽出できます。加えて、UltraRIPAバッファーはRIPAバッファーよりも優れた可溶化能を持ちながら、RIPAバッファーと同様にタンパク質をほとんど変性させません。そのため、UltraRIPAバッファーで抽出したタンパク質は酵素活性測定や免疫沈降などの結合実験など、様々なアッセイに用いることが出来ます。

組成 : 非開示

※本製品にはプロテアーゼ阻害剤などは含まれておりません。

フォーマット : 1x UltraRIPA Buffer, Ready to use

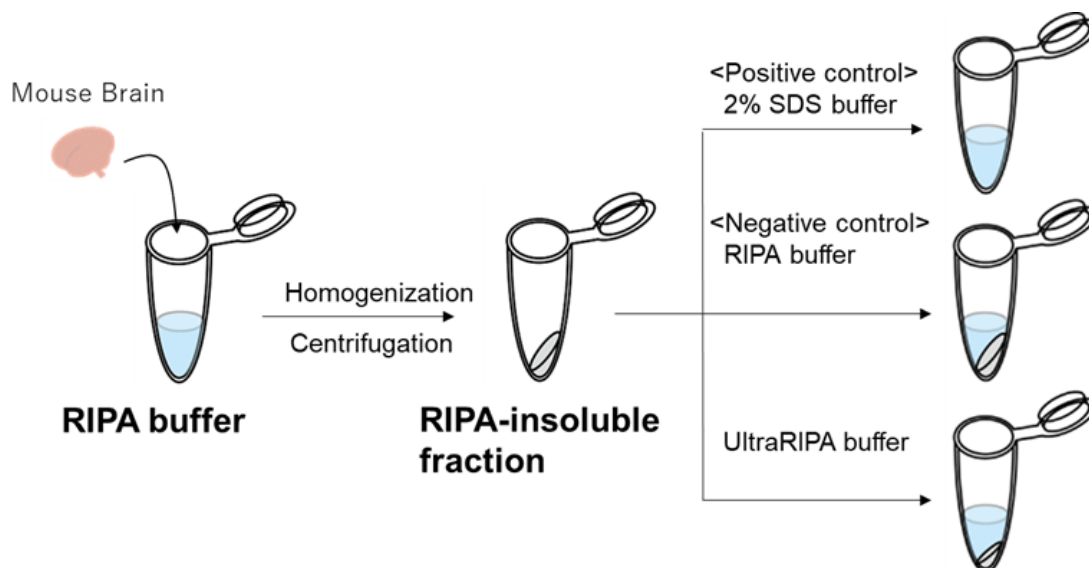
保存条件 : 4 °C (品質保持期間: 製品受け取り後1年)

関連製品 :

F015A-100 F015A-250	RIPA Buffer
------------------------	-------------

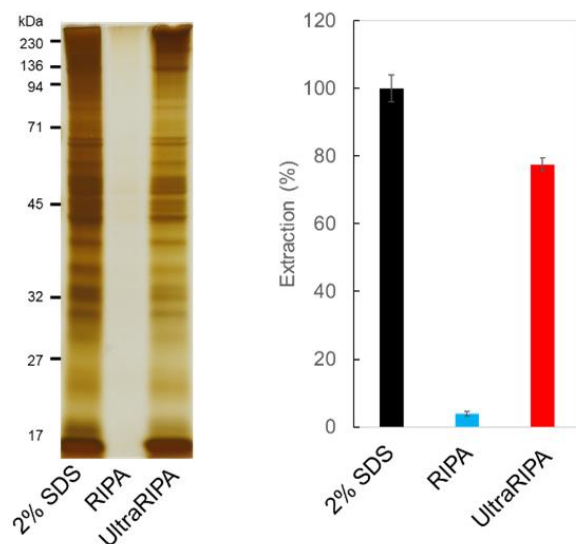
タンパク質抽出：

実験方法



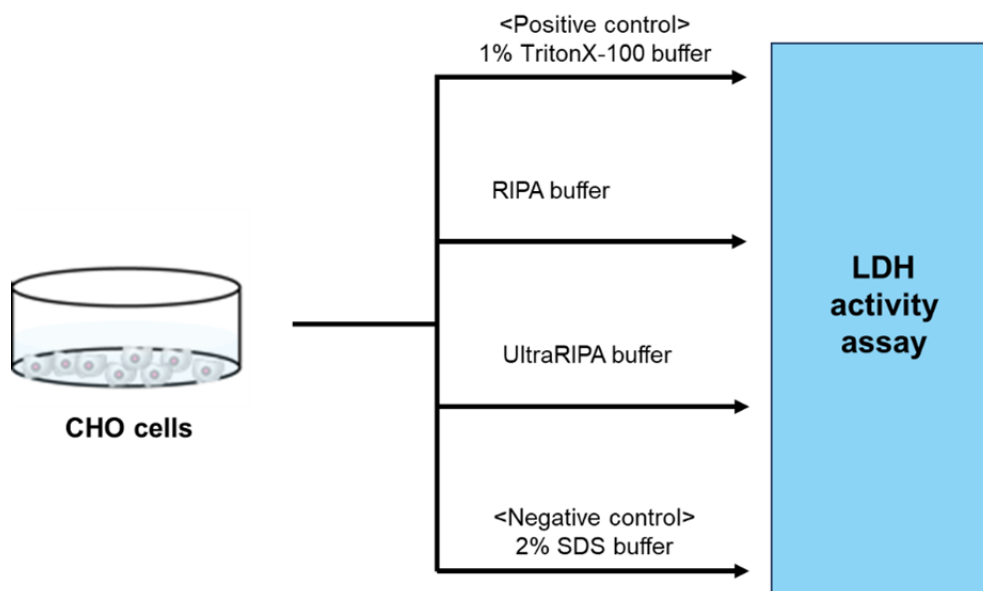
マウス全脳にRIPAバッファーを加えホモジナイザーおよび超音波破碎機による破碎の後、遠心分離。遠心分離後に得られた沈殿画分に2% SDSバッファー、またはRIPAバッファーまたはUltraRIPA/バッファ-を加え再懸濁。遠心後得られた各上清を銀染色とBCAアッセイによりタンパク質量を比較。

実験結果

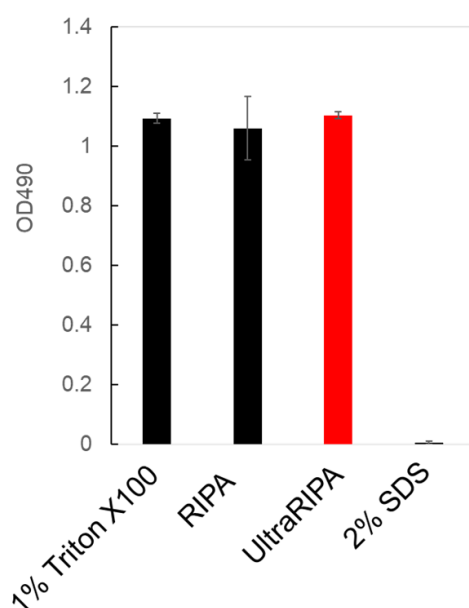


UltraRIPA/バッファーはRIPA/バッファー不溶性画分から70%以上のタンパク質を抽出

酵素活性: 実験方法



CHO 細胞をそれぞれ 1% Triton X-100 含有バッファー、RIPA バッファー、UltraRIPA バッファー、2% SDS バッファーで溶解・遠心後、上清に含まれる乳酸デヒドロゲナーゼ(LDH)の酵素活性を測定。



実験結果

UltraRIPA バッファーで抽出した上清中の LDH 活性は 1% Triton X-100 含有バッファーや RIPA バッファーで抽出した上清中の LDH と同等であった。